

2010年1月～2010年12月に当院にて肺がん手術を受けた方へ  
研究：「肺門部浸潤肺癌の治療成績の検討」の実施について

1. 本研究の意義および目的

肺門部浸潤肺癌手術例の治療成績を明らかにすることです。

肺門部浸潤肺癌では、肺葉切除以上の手術、腫瘍の浸潤程度によっては肺全摘術が必要となり、治療後、呼吸・循環器機能への影響も大きく生活の質を大きく損うことがあります。標準治療として外科手術の病期に応じた術後補助療法が推奨されていますが、現実には術前導入治療後に手術が行われる症例も多く、その実態及び治療成績は明らかでない点があります。当院を含む瀬戸内肺がん研究グループで、過去に行った肺門部浸潤肺癌症例の臨床データを後ろ向き観察研究で検討します。

2. 研究の方法

全国多施設から2010年1月～2010年12月の肺門部浸潤肺癌手術例の実施内容と治療後の診療情報を集積し、治療結果や有害事象について解析します。診療情報は診療録および診療録に付随する画像データベースより収集します。取得した診療情報には番号を付与し匿名化します。

3. 研究全体の期間と予定症例数

研究期間は当院実施承認後～2017年12月末で、予定症例数は20病院で約100例です。当院では約5例の予定です。

4. 研究結果の公表について

本研究の成果は国内外の学会および学術雑誌で発表いたします。

5. 研究の開示について

この研究について、さらに詳しい内容を知りたい場合は、他の患者さんの個人情報保護やこの研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、研究計画、方法（および結果）についての資料を見ることができます。希望される場合は、担当医師にお伝えください。

6. 個人情報に関して

個人のプライバシーに関する情報は守られ、個人が特定されることはありません。

7. 本研究への参加を拒否する場合

本研究への参加を拒否される場合は、研究対象から除外いたします。下記(9)連絡先までご連絡ください。

8. 研究機関、研究責任者

研究機関：国立病院機構 四国がんセンター 呼吸器外科

研究責任者：山下 素弘

9. 連絡先

広島市立病院機構 広島市立広島市民病院 呼吸器外科

松浦 求樹

電話：082-221-2291

※本研究への参加に同意しない場合は、連絡先までご連絡ください。